

# 高齢者関連業務／生産性向上のご提案

## ～認知機能検査タブレットのご紹介

# 1. なぜ認知機能検査タブレットが必要なのか？

- ・ 高齢者対策関連道路交通法改正（令和4年5月13日）による効率化の恩恵を受けるため
- ・ 教習所経営における高齢者講習の重要性が相対的に向上しているため

- 認知機能検査・高齢者講習が合理化（効率化）され、1回の来校で更新前の諸手続きが完結するようになった

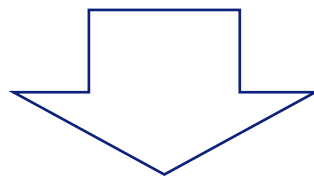
（内訳）

- ① 認知機能検査の結果区分が3区分→2区分に変更
  - ② 高齢者講習が「2時間講習」に一元化
  - ③ 認知機能検査と高齢者講習の実施順序自由化
  - ④ タブレットを用いた認知機能検査の解禁
- 認定制度が導入された
  - 運転技能検査が導入された

## ①. 認知機能検査の結果区分が3区分→2区分に変更

認知機能検査は医師の受診を求める者を特定できるものであればこと足りるため、結果の判定は2区分となった

従来の結果区分（～R4.5）	
49点未満	<b>第1分類</b> (認知症のおそれ)
49点以上76点未満	<b>第2分類</b> (認知機能低下のおそれ)
76点以上	<b>第3分類</b> (認知機能低下のおそれなし)

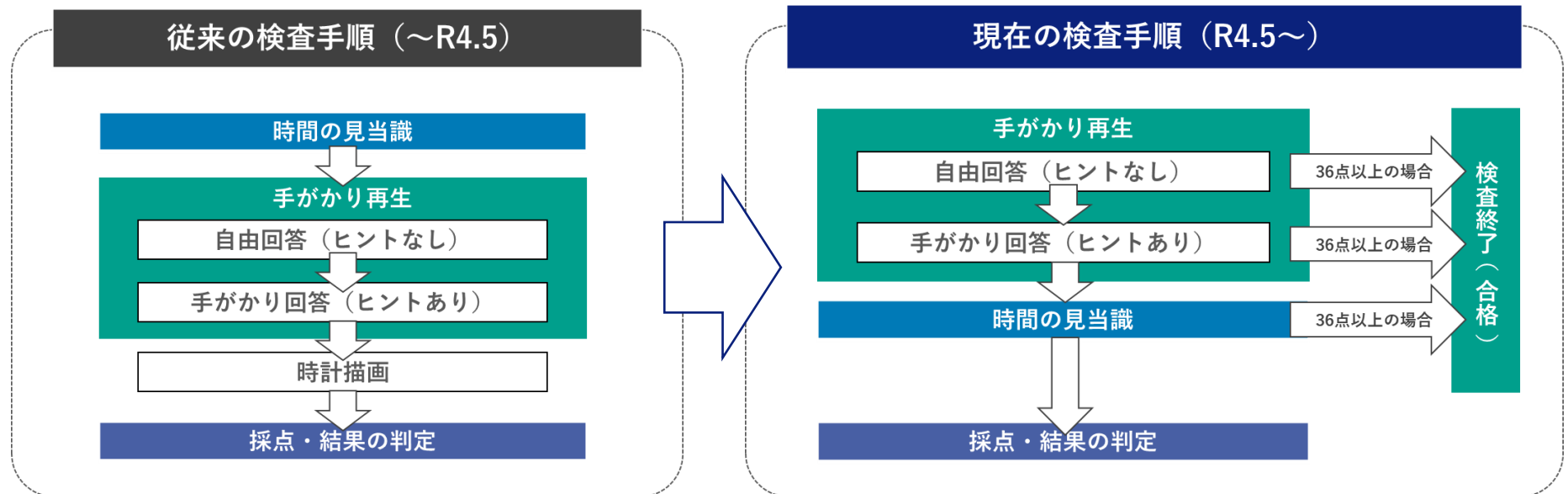


現在の結果区分（R5.5～）	
35点以下	<b>認知症のおそれあり</b>
36点以上	<b>認知症のおそれなし</b>

## ①. 参考) その他、認知機能検査内容の変更

- ・ 検査項目の簡素化（時計描画の削除）
- ・ 検査手順の合理化（タブレットの活用）
  - (1) 検査項目の順番変更

(2) カットオフポイント（合格点）に達した時点での検査終了が可能に  
検査項目のうち点数の比重が大きいもの（手がかり再生）から順に実施し、タブレットの**自動採点機能**によりリアルタイムで採点を行い、**点数がカットオフポイントに達した時点で検査終了**とする



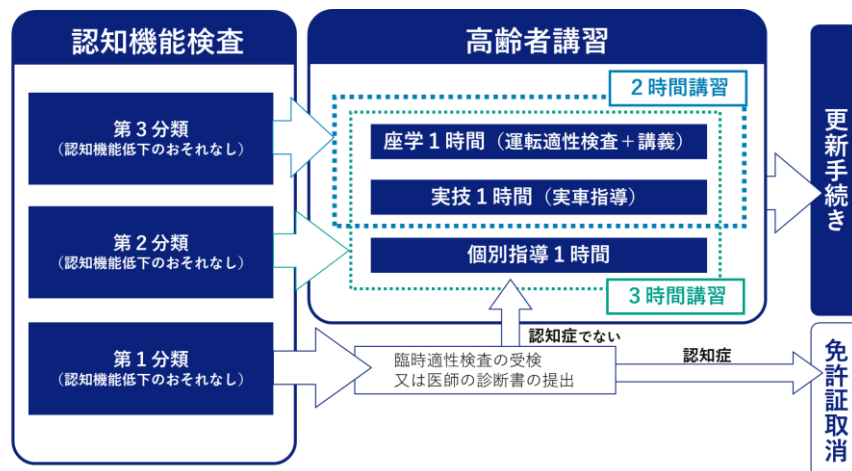
## ②、③. 高齢者講習が「2時間講習」に一元化／ 認知機能検査と高齢者講習の実施順序自由化

従来、高齢者講習は、認知機能検査の結果区分に応じ、  
「2時間講習」と「3時間講習」の**2パターン存在**したが、  
認知機能検査の結果区分が2区分になることに伴い、「**2時間講習**」に一元化された

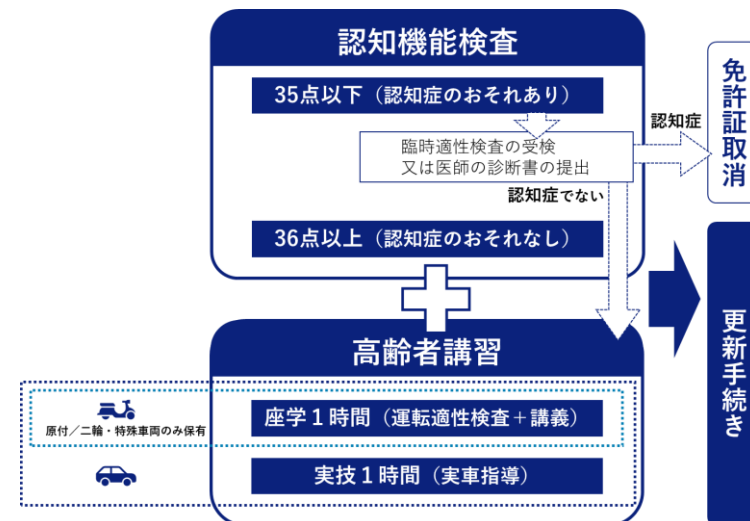
認知機能検査の結果区分に関わらず、「2時間講習」を行うようになったことから、  
認知機能検査と高齢者講習の**実施順序も自由化**された

(高齢者講習を行ったのちに認知機能検査を行うということも可能)

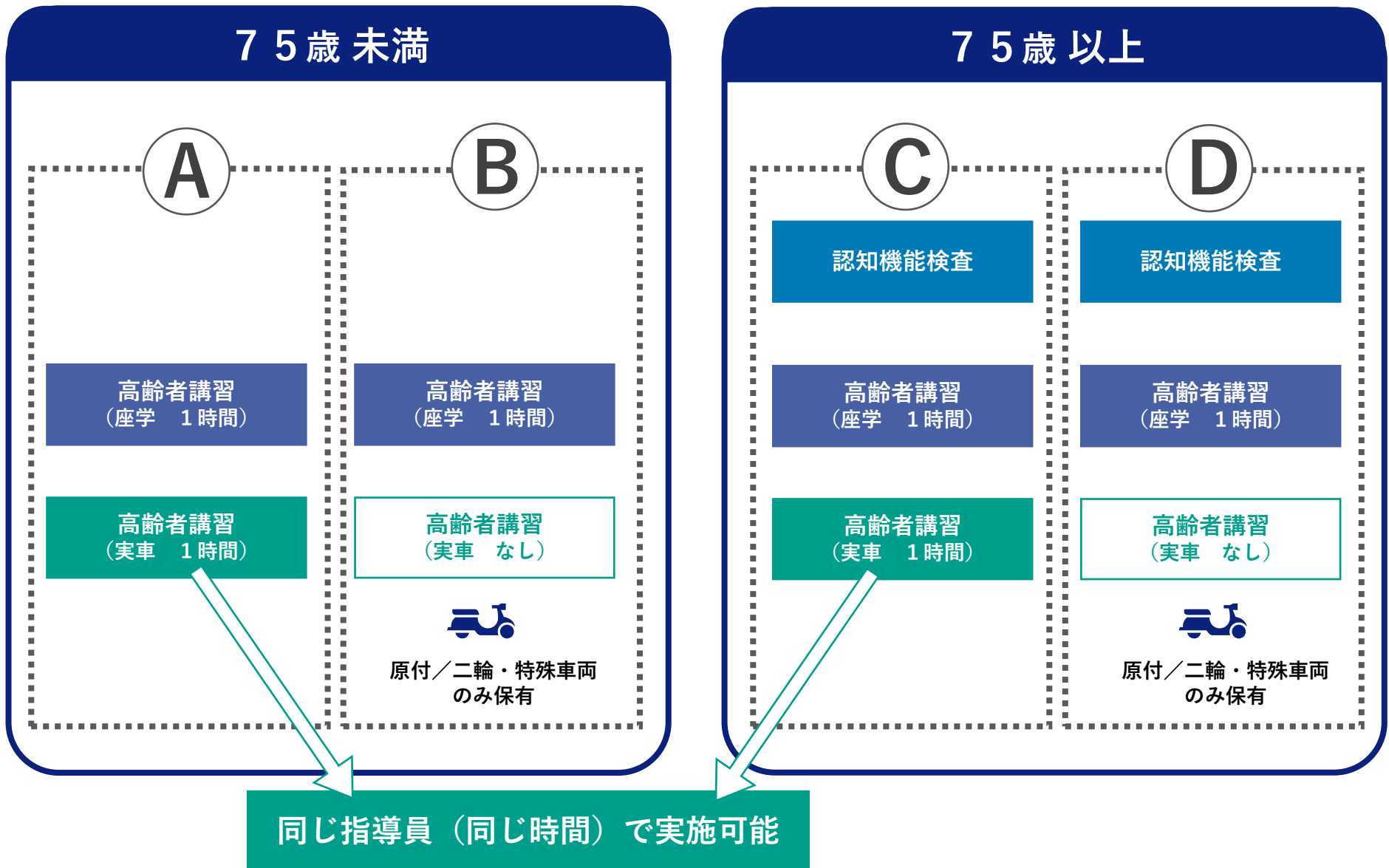
### 従来の検査手順（～R4.5）



### 現在の検査手順（R4.5～）



💡 法改正のポイント：効率的な予約枠の設定が可能に





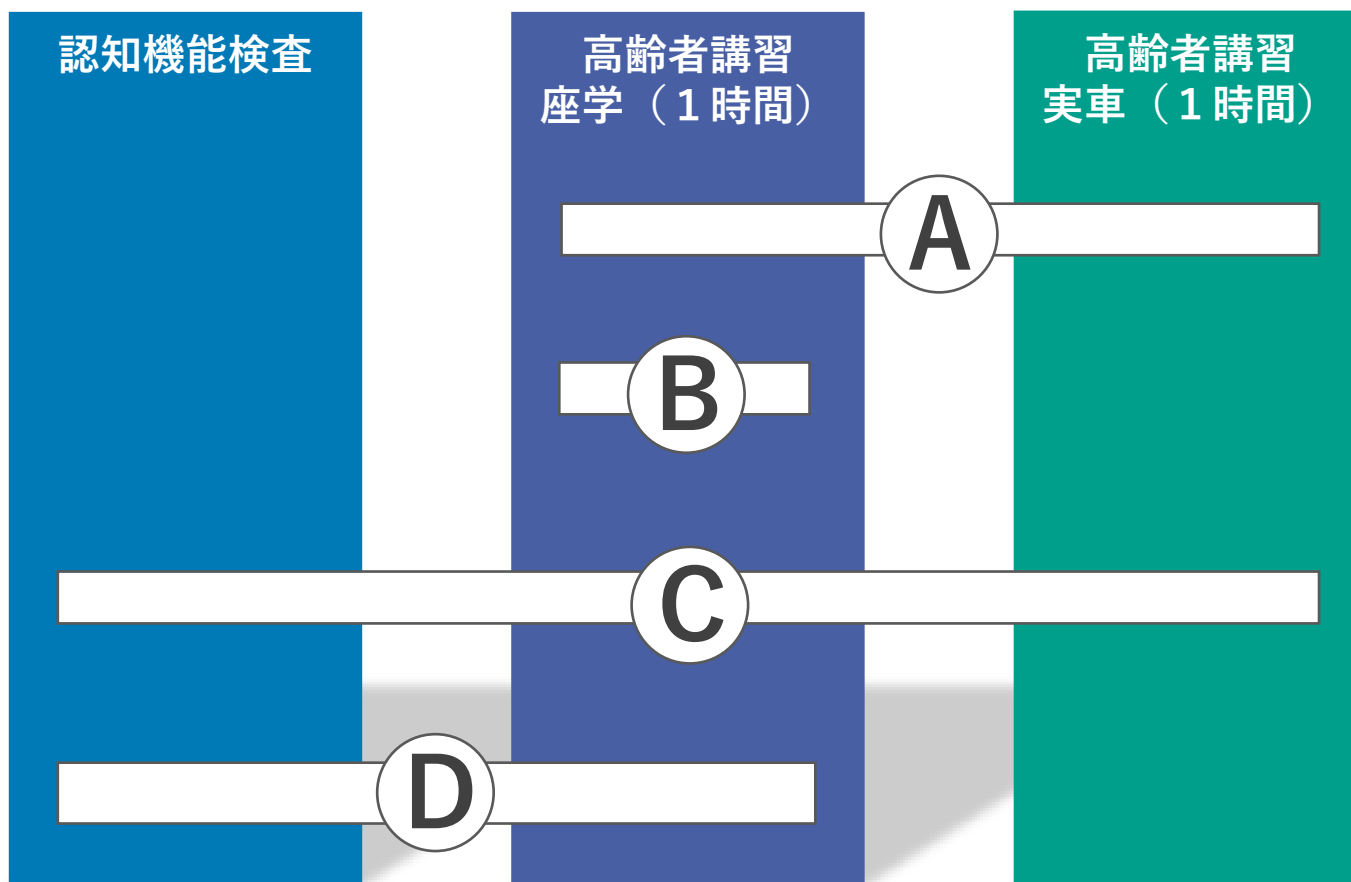
💡 法改正のポイント：効率的な予約枠の設定が可能に

(例) 10月20日 (金) 午前 通常 (更新)

9:00~10:00

10:00~11:00

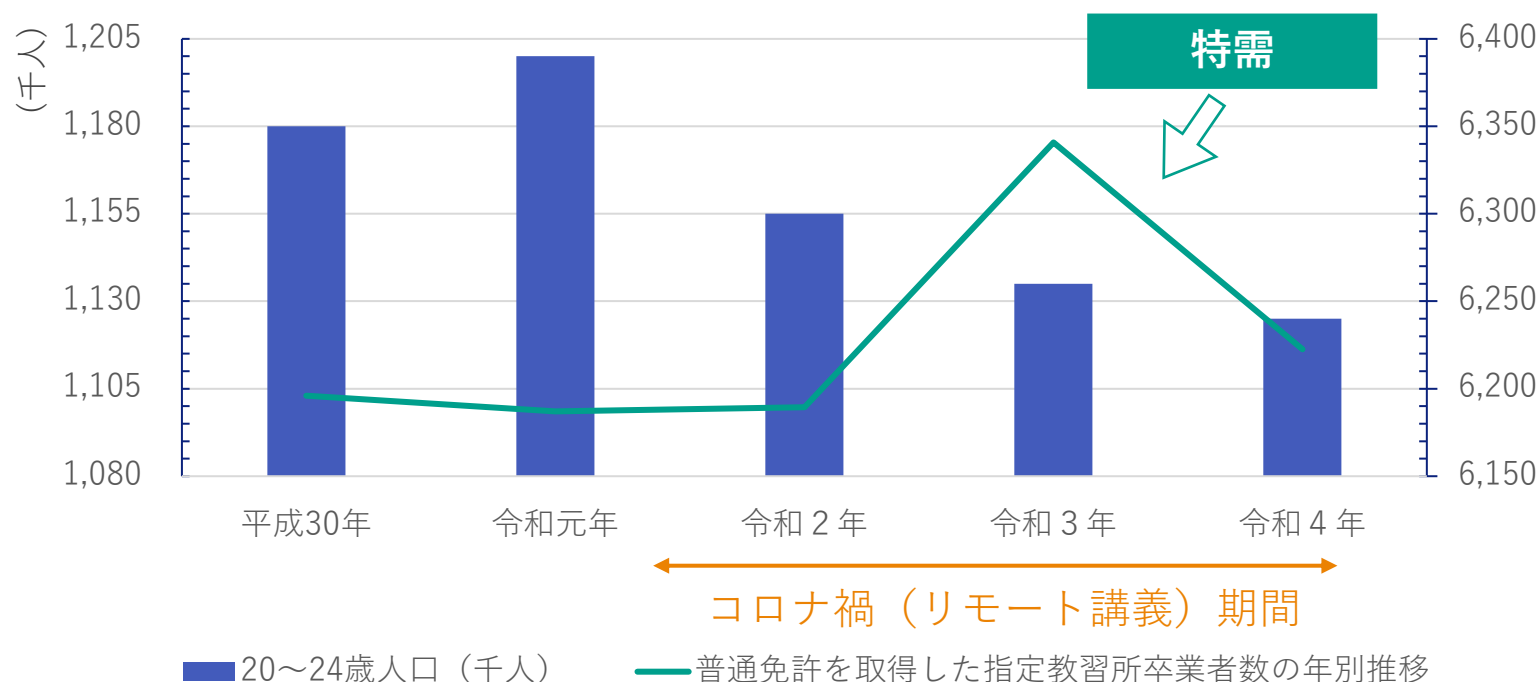
11:00~12:00



一度の来校で高齢者関連業務が完結！

## 背景①：新規免許取得人口の微減とコロナ禍の需要先食い

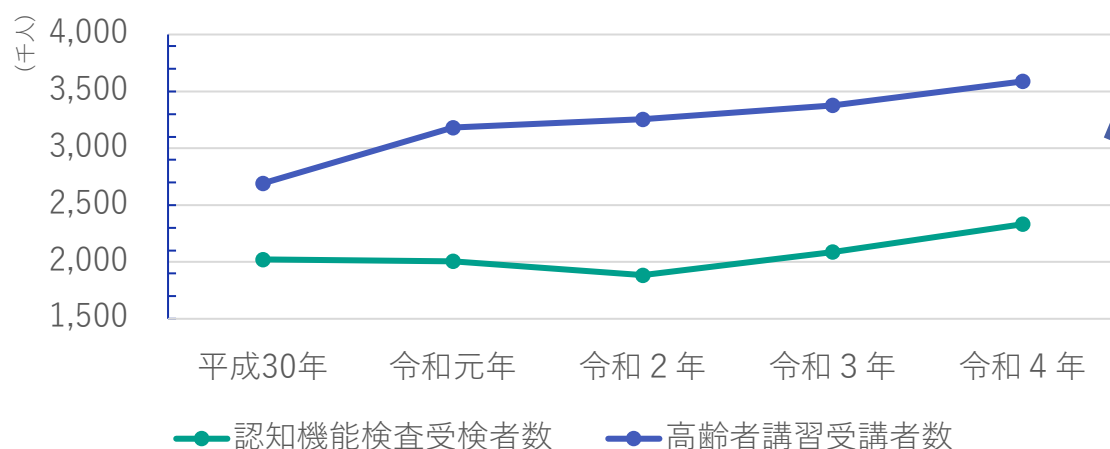
コロナ禍対策による大学でのリモート講義導入により、新規免許取得者の多い大学生層の教習所入校の早期化が発生。これにより直近数年間は需要先食いによる教習所業界で特需が発生したが、**R5年以降に反動（=入校生減）が予想される**



出典：警察庁交通局運転免許課『運転免許統計 令和4年版』  
総務省統計局『人口推計』平成30—令和4年12月報

## 背景②：対象人口の急増

- 過去5年間で高齢者講習実施数は133%、認知機能検査も115%増進



高齢者講習・認知機能検査共に  
実施件数は右肩上がり

- 今後5年間では「団塊の世代」が75歳以上となり、**認知機能検査の受検者数が約2倍になる**と予想されている

年齢別運転免許証所有者数 (R4)	
70～74歳	6,558千人
75歳以上	6,665千人

← 今後5年以内に  
認知機能検査の対象となる

## 背景③：高齢者講習の単価増

### (1) 委託手数料UP

- ・法改正以前（～令和4年5月）：5,100円
- ・法改正以後（令和4年5月～）：6,450円

↑↑ 単価20%UP

### (2) 認定制度による売上・キャッシュメリット

① 消費税非課税（6,450円内だと非課税）

売上10%分が  
利益になる

② 委託料の免除（目安：10%）

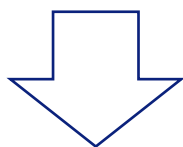
③ 価格自由化（繁忙期に高齢者講習を行う合理性を持たせることが可能）

④ 証紙購入によるキャッシュフローの悪化回避

他にも…

- ・他県の受講・受検者の取り込みも可能
- ・校長印での押印が可能になるため、  
公安委員会印の押印が不要に！&モノクロでもOK！

- 法改正により、「高齢者講習」と「認知機能検査」の順序の制限が撤廃され効率的なコマ割りが可能になった
- 警察庁から「～検査を受ける高齢者の利便性の確保に配慮すること。」※と各都道府警察に通達が出されたことに呼応し、「高齢者講習」と「認知機能検査」を同一開催する県警が増えている（例：岐阜県警察・茨城県警察等）



- 同日開催の流れは確実に進行していくため、**収益性の高い高齢者講習の件数を増やしていくには、認知機能検査数も同時に増やす必要がある**
- 認知機能検査は単価が低く、高齢者講習に比べ利益を捻出しづらいため、**タブレットを導入し効率的に運用し、人的リソースの負荷を軽減することが効果的**

- ・ **消費税が非課税**

- ・ 認定高齢者講習は、消費税が非課税です。  
年間売上が3,300万円の教習所は、300万円の利益増になります

- ・ **証紙が不要**

- ・ 証紙を買う手間、管理する手間がなくなります。  
キャッシュフローも良くなります。

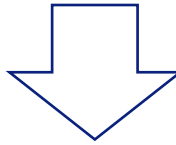
- ・ **教習所が自由に価格を設定できる**

- ・ 教習所が自由に価格を設定できます。  
例えば、2月、3月の繁忙期に2万円で実施できます。

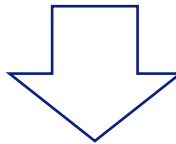
- ・ **証明書の発行が簡単**

- ・ 証明書の発行元が公安員会ではなく、教習所になります。  
白黒プリンタで押印付の印字も可能になりました。

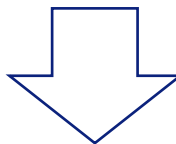
なぜ認知機能検査タブレットが必要なのか？



高齢者講習の重要性が相対的に向上



高齢者講習の数を増やすためには  
認知機能検査の数も増やさないといけない

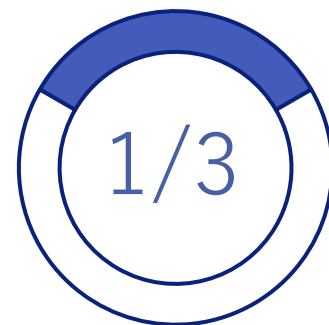


タブレットを導入し、効率的に  
認知機能検査を運用するため

## 2. 認知機能検査タブレットで どう効率化できるのか？



認知機能検査にかかる時間を



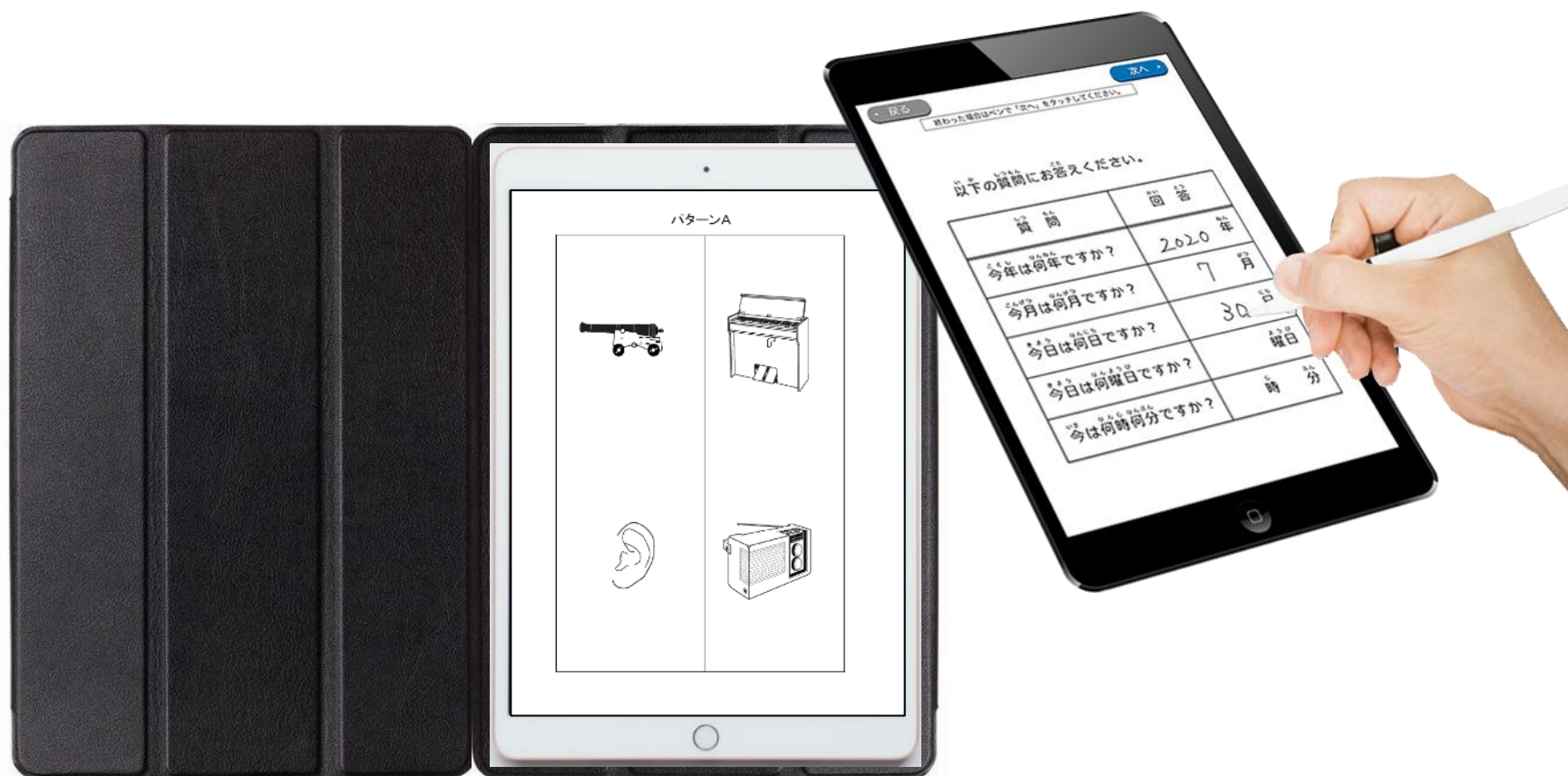
に短縮



音声ガイドによる検査の個別・自動進行

自動採点機能の活用による検査員の人数・作業負担・コスト削減

高齢者講習システムとの連携によるデータ処理の負担軽減

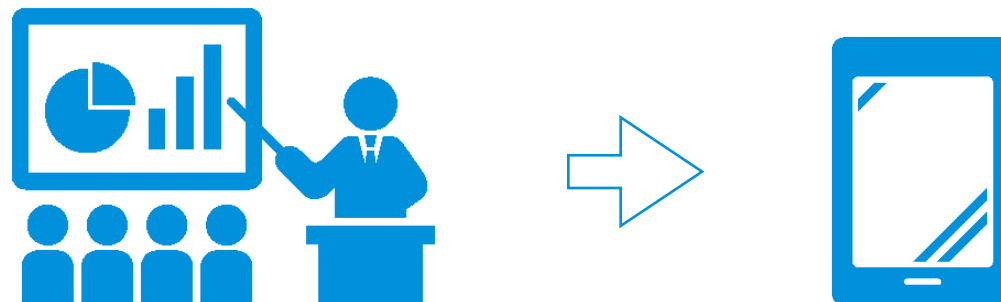


## メリット① 待たせなくてよくなる、遅れても良くなる

Confidential

DNP

- 音声ガイドにより、自動／個別で進行することができます
- 検査員が壇上に立ち、一斉に検査を開始・終了させなくてもいいため、早く来校された受検者を待たせる必要がなくなります。少し遅刻しても途中参加いただくことが可能です
- 再受検も当日中に可能になります

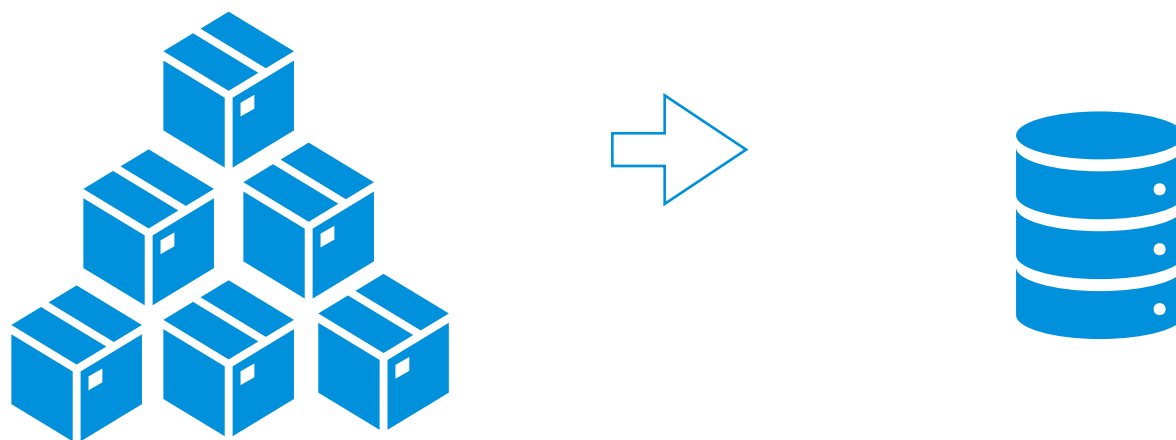


## メリット② 用紙保管が不要

Confidential

DNP

- 4年間の保管義務のある受検用紙・採点補助用紙については、電磁的記録（データ保管）をするだけで良くなります
- 面倒な保管業務に追われることも、保管スペースが圧迫されることも、なくなります



## メリット③ 目視採点対象者の大幅削減

Confidential

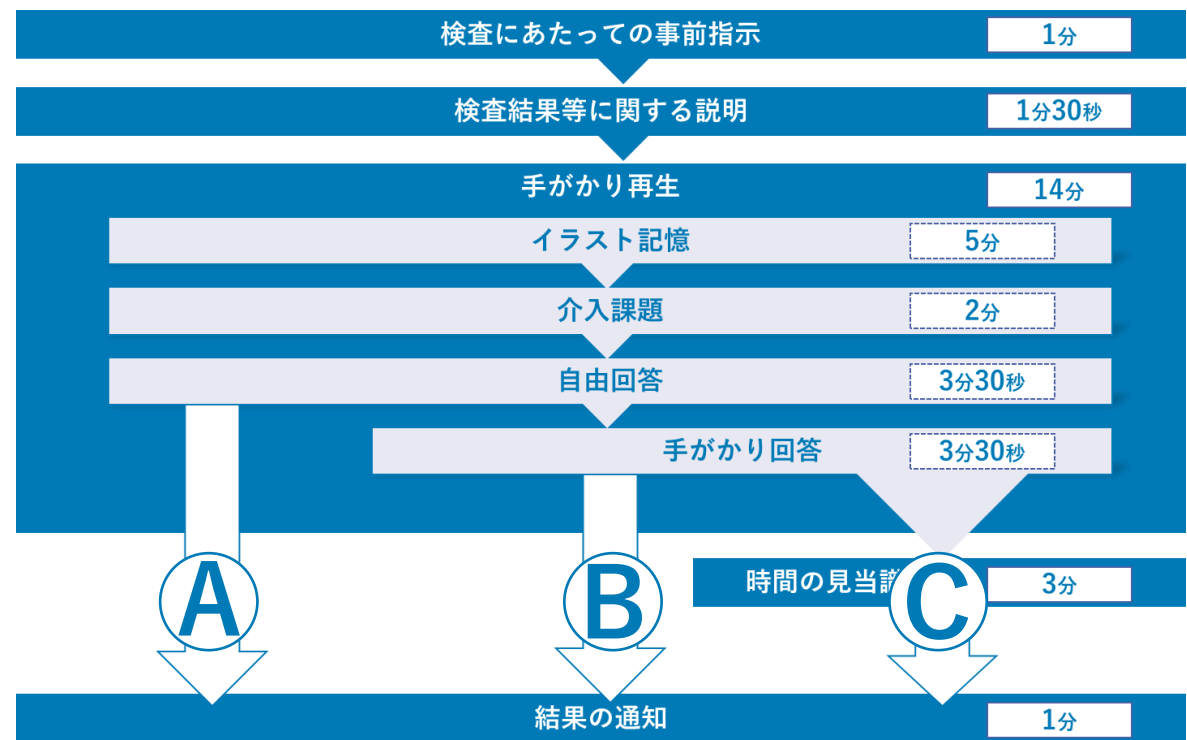
DNP

- 自動採点機能（合格点に達したら検査終了）を用いることで、検査途中で合格点に達した人へ目視採点（システムの採点に誤りがないか）が不要になります
- 目視採点が必要になるのは、受検者全体の約10%です（90%は点検のみでOK）

	推定所要時間	割合
A	14分以下	90%
B	17分30秒以下	
C	20分30秒以下	10%



受検者の90%が  
17分30秒以内に合格になり終了



# 自動採点機能（合格点に達したら検査終了）について

Confidential

DNP

- 回答は、**リアルタイムに自動で採点**されます。必要に応じて、手動での修正も可能です。
- 検査終了後は、自動採点の結果、「認知症のおそれ」と判定された者については、システムの採点に誤りがないか（正答を誤って誤答と判定しているものがないか）を採点者が確認することを想定しています。

①自由回答課題



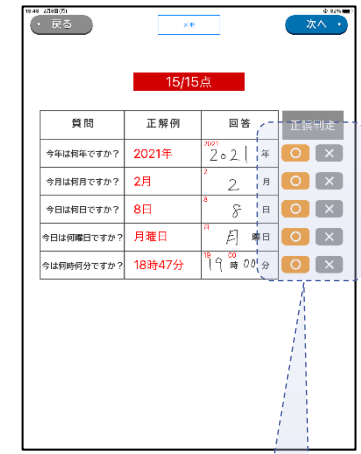
自動採点!

②手がかり回答課題



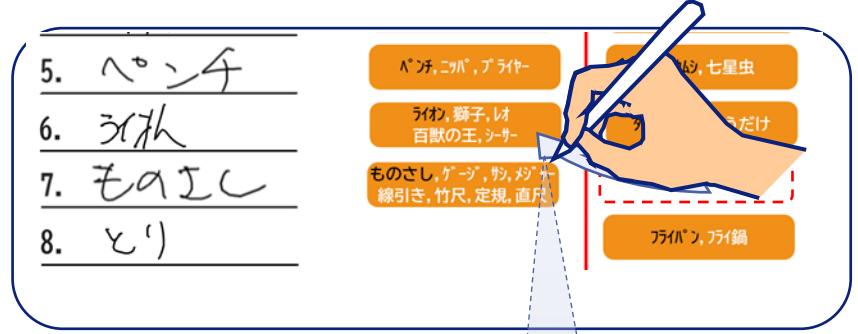
自動採点!

③時間の見当識課題

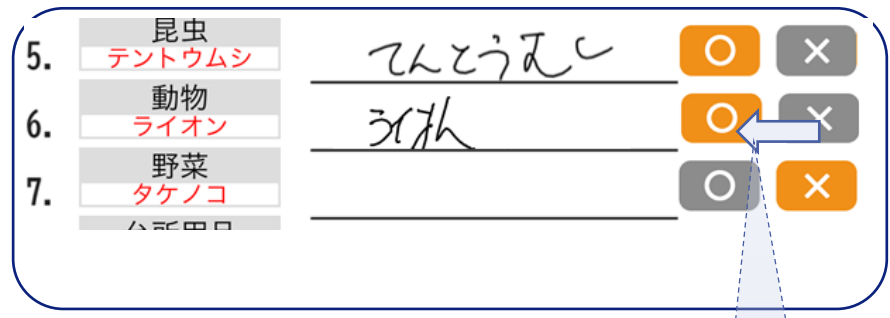


自動採点!

確認・修正



手動修正



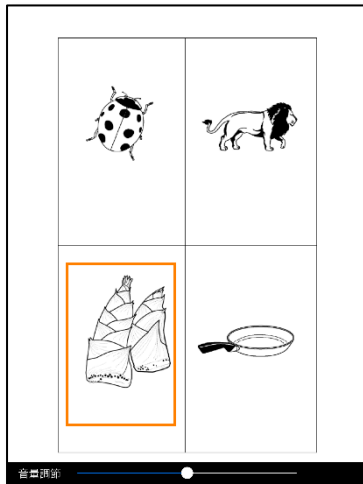
手動修正

# 自動採点機能（合格点に達したら検査終了）について

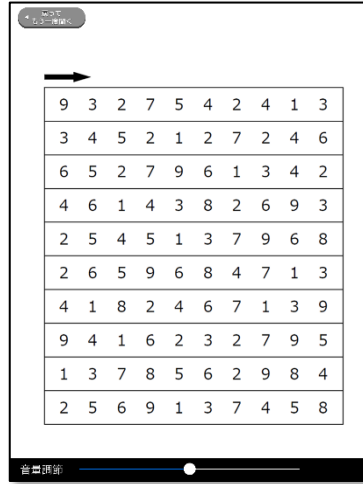
Confidential

DNP

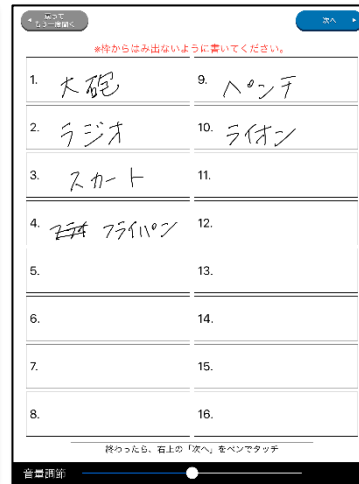
①手がかり再生  
イラストの記憶



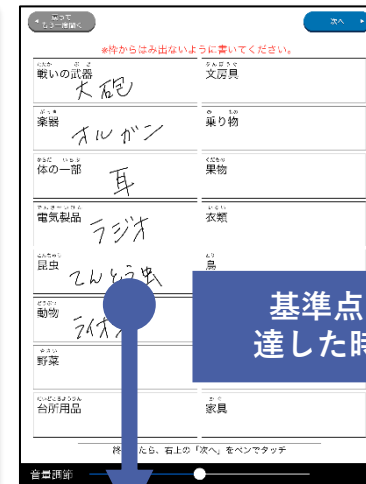
②手がかり再生  
介入課題



③手がかり再生  
自由回答



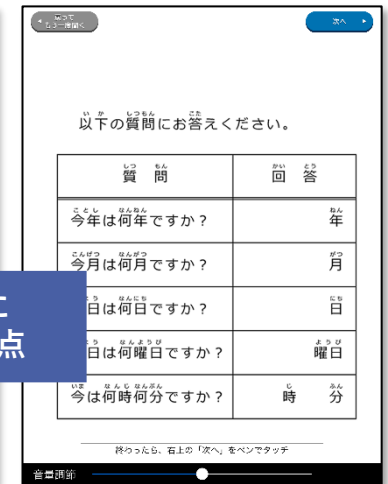
④手がかり再生  
手がかり回答



基準点に  
達した時点

自終  
動了

⑤時間の見当識



開  
始

平均 約 9 分※

※簡素化版の実験結果  
(名前の記入から計測)

リアルタイム自動採点機能により、  
基準点に達した時点で検査が終了します。

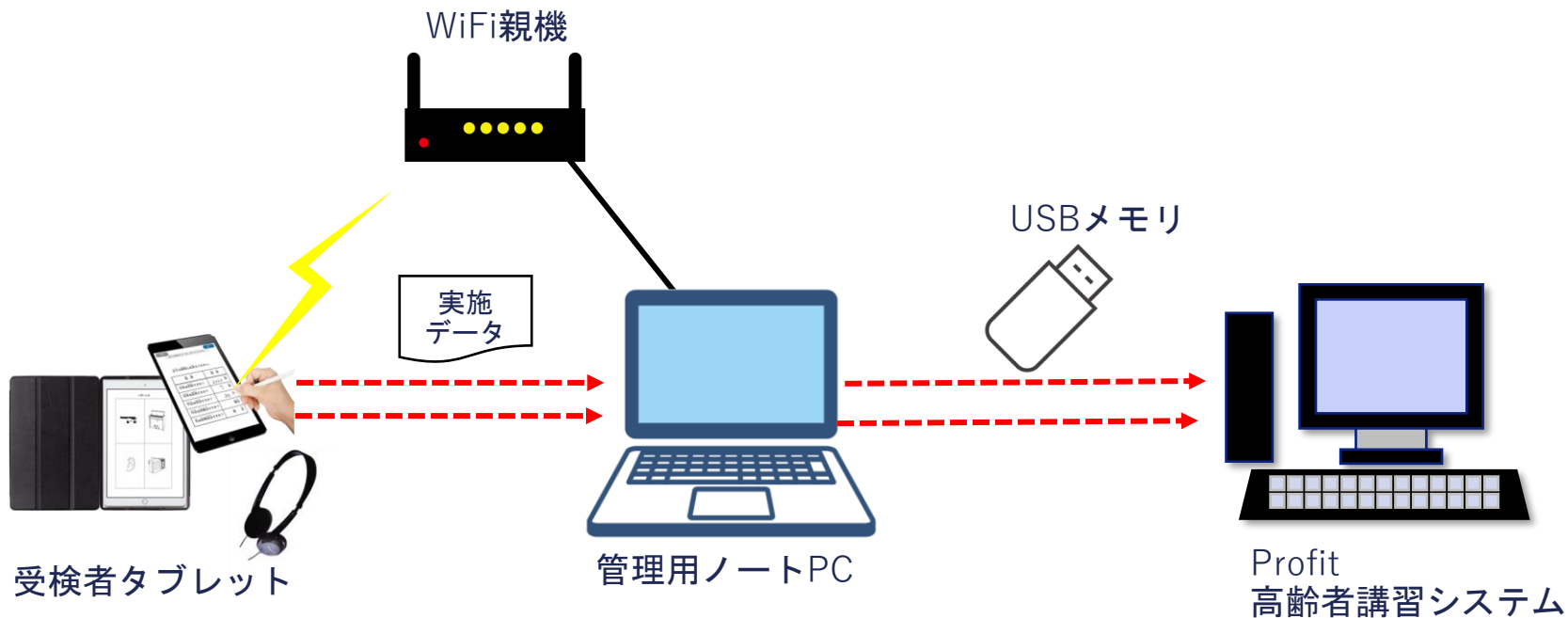
## メリット④ 高齢者講習Sとのデータ連携で入力の手間削減

Confidential

DNP

実施結果を「高齢者講習システム」にUSBメモリを介して、転送することができます。

※現在、サポートしているのは、Profit高齢者講習システムのみです。この機能は有償オプションです。





### 3. 認知機能検査タブレットの導入について



2023年度までに

**28** 都府県

警察様へタブレット導入

- 22年度タブレット導入済
- 23年度タブレット導入済

